

## 専門委員会開催報告

専門委員会名	第 11 回「核燃料サイクルの日本型性能保証システム」研究専門委員会
開催日時	平成23年2月4日(金) 13:30 ~ 17:00
開催場所	日本電気協会 4 階 A 会議室
参加人数	13 名 森主査, 天野幹事, 諸葛幹事, 山本幹事, 村上委員, 巖淵委員他
議 事	<p>12 月のシンポジウムの総括と今後の議論の進め方について議論。</p> <p>①中間報告会実施報告；</p> <p>森（信昭）主査より、資料 11-3～11-10 に沿い説明があった。その中で、電気新聞の記事は同社記者の自主的な取材によるものであり、電力業界等に対する周知が期待できるとの説明があった。また、山本委員より、資料 11-11 に沿って当日の会場での質問に対する当委員会側の回答概要の説明があった。更に、意見交換の結果、原子力学会に対し本中間報告会の状況報告を行うこととなり、天野幹事及び佐々木委員が担当することとなった。</p> <p>②今年の実施計画；</p> <p>天野幹事より、資料 11-12-1 に沿い、石油を中心とする化石燃料の供給は早晚ピークを迎えるとの見方が広く定着しつつあるとの説明があった。続いて資料 11-12〔1〕に沿って当委員会の今年の活動の進め方につき私案を説明するとともに、当委員会の事前打ち合わせ（2 月 4 日午前中に森（信）、天野、佐々木、村上、山村及び山本が参加して開催）での意見交換を踏まえての具体的検討の視点の素案として、(i)今後の原子力展開、(ii)国策民営体制、(iii)国際展開、(iv)コスト・稼働率・波及効果、及び(v)立地の各視点につき主担当者を置き、検討を深めて最終報告を目指してはどうかとの口頭での提案が行われた。</p> <p>意見交換の結果、今後概ね 2 ヶ月に 1 度の頻度で当委員会を開催（偶数月を原則）し、本年 12 月に最終報告書案の報告を行うことを目指すこととなった。また、最終報告書の検討に当たっては、過度に検討の範囲を広げることなく、極力既存のデータ源を活用する等により効率的に作業を進めること、及び受け取る側が「元気の出る報告書」とすることを目指すべきであるとの点で意見の一致をみた。</p> <p>また、具体的な検討内容については、今回の当委員会での議論を踏まえ、天野幹事が視点ごとに目指すべきアウトプット案及び主担当者案をまとめたメモを作成することとなった。また、同メモを今回の当委員会議事メモ案とともに、可能な限り早急にメールにより当委員会メンバーに配布し、各位のコメント等を踏まえて修正し</p>

	<p>た上で、修正後のメモに従って次回の当委員会の中で各主担当者から取り敢えずのスケルトン案を提示することとなった。</p> <p>③中国の原子力について；</p> <p>諸葛幹事より資料 11-15 に沿って、今後急速な発展が見込まれる中国の原子力開発利用の状況等につき、先般同氏をミッションヘッドとして行われた現地調査の結果報告が行われた。その中で、今後絶対的に不足すると思われる原子力人的資源を補う意味で、我が国のシニア人材の貢献に対する中国側の強い期待が表明されたとの紹介があった。</p> <p>④中間報告後の検討状況；</p> <p>村上委員より資料 11-13 に沿って、最近の総合科学技術会議及び原子力委員会における検討状況の概要が紹介され質疑応答が行われた。引き続き山本幹事より資料 11-14 に沿い、公的研究開発機関における大型研究開発施設の維持や外部研究者による利用を巡る現状と課題等につき説明があり、質疑応答が行われた。</p> <p style="text-align: right;">以上</p>
備 考	

平成 22 年 12 月 17 日

## 専門委員会開催報告

専門委員会名	第十回「核燃料サイクルの日本型性能保証システム」研究専門委員会
開催日時	平成22年11月26日(水) 13:30 ~ 17:00
開催場所	東京大学第二本部棟6階610号室
参加人数	11名 森主査, 天野幹事, 諸葛幹事, 山本幹事, 村上委員, 巖淵委員他
議 事	<p>12月のシンポジウムにおいて公表する中間報告書の修文検討を実施。</p> <p>(1) 報告書全体</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・ 報告書タイトルに(案)をつけることとする。</li><li>・ 用語の統一を行う。等</li></ul> <p>(2) I章 検討の前提条件</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・ 図1-1のタイトルを「目指すべき核燃料サイクルの～」に修正。</li><li>・ 日本型性能保証システムは国際展開も考えたものにする旨追記。また、国際展開に係る課題をVIII章にも追記。等</li></ul> <p>(3) II章 検討方針</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・ 章題は「検討項目の抽出」に変更。等</li></ul> <p>(4) III章 中枢的政策立案機能</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・ 章題は「中枢的政策立案機能およびガバナンス機能」に変更。等</li></ul> <p>(5) IV章 公的機関が行うRD&amp;D等(性能保証のための仕組み)</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・ 章題含め、用語統一を実施のこと。等</li></ul> <p>(6) V章 公的研究開発機関と事業主体間の技術移転/技術継承</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・ p.32の図の「英」の欄に機器メーカーも加え、発注→納品だけでメーカーにデータが流れないことが分るよう修正。等</li></ul> <p>(7) VI章 安全規制;「柔軟な規制」の必要性</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・ 4節、5節は再処理には適用困難。炉の話として補足へ移設。等</li></ul> <p>(8) VII章 人材の育成と活用</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・ p.44 3.2項以降は再処理に直接関係しないので補足へ移設。</li><li>・ 国際展開では、環境負荷が低いという日本の再処理の利点を前面に出すべきである旨、文中に追記。等</li></ul> <p>(9) VIII章 まとめ(今後の検討方針等)</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・ p.47「中枢的立案機能の欠如」を修文。</li><li>・ p.48に「国際展開のイメージと方策」等の項を追記。等</li></ul> <p>次回委員会;2月4日(金)13:30から電気協会にて</p> <p style="text-align: right;">以上</p>
備 考	

平成22年11月1日

## 専門委員会開催報告

専門委員会名	第九回「核燃料サイクルの日本型性能保証システム」研究専門委員会
開催日時	平成22年10月20日(水) 13:30 ~ 16:45
開催場所	東京大学山上会館 201/202 会議室
参加人数	11名 森主査, 天野幹事, 諸葛幹事, 山本幹事, 村上委員, 巖淵委員他
議 事	<p>(1) 第8章まとめは、「本報告書における提言事項」と「今後の検討課題」とに分けて記述することとなった。また、検討の過程で広く議論を行ったが、報告書では日本型性能保証システムに絞って本文に記載し、その他は必要に応じて参考資料として添付することとなった。とくに第VI章安全規制は2. から5. までは参考資料とする方向で検討することとなった。</p> <p>(2) 「核燃料サイクルの日本型性能保証システム」のイメージ図及び文章の一部を見直すこととなった。</p> <p>(3) 「報告書取りまとめに向けた議論のポイント」をまとめた表のフォーマット、課題の評価項目及び評価記号、課題の記述等について見直すこととなった。また、本表は重要であり、多くの読者が引用する可能性が高いと思われるため、記載振りを十分に吟味すべきとの意見があった。さらに、第II章として記載されている内容は、第I章との関連を考慮して見直すこととなった。</p> <p>なお、稼働率に係る記述は、まとめて行うこととなった。</p> <p>(4) 原子力学会 2010 年秋の大会で行われた本委員会からの発表について、状況報告がなされた。</p> <p>(5) 本委員会検討成果の中間報告会開催案内の説明が行われ、開催案内は学会誌11月号に掲載される予定であるとの紹介があった。また、報告会プログラムの内容について議論があった。</p> <p>(6) その他、本研究会での検討内容について焦点を絞ることが必要とのコメントがあった。これを受け、中間報告書の記載振りについても工夫することとなった。</p> <p>(7) 宿題事項</p> <p>以上の議事の結果、中間報告書の各著者に対し、宿題を確認した。それぞれ10月27日を期限として、山本幹事まで提出することとなった。</p> <p style="text-align: right;">以上</p>
備 考	

平成22年10月26日

## 専門委員会開催報告

専門委員会名	第八回「核燃料サイクルの日本型性能保証システム」研究専門委員会
開催日時	平成22年8月27日(金) 13:30 ~ 17:00
開催場所	東京大学第二本部棟6階610号室
参加人数	17名 森主査, 天野幹事, 諸葛幹事, 山本幹事, 村上委員, 巖淵委員他
議 事	<p>(1) 中間報告目次項目について各執筆者より説明。主な議事は以下のとおり。</p> <ul style="list-style-type: none"><li>資料 8-1 (中間報告書全体構成について) : 今後の編集作業として、①~⑩を第6回委員会(5月13日東大)で了承された全体構成(目次)に従って編集し、全体を通して内容を検討の上、幹事又はボランティア委員が導入部分(目次前段部分)を執筆する等の方針が確認された。</li><li>資料 8-2 : 研究機関とメーカとの関係、研究機関における命題(当初は工学実証、後に技術移転)などについて議論。</li><li>資料 8-3 : TRP の保全実績などの有効活用方法などについて議論。ゼロリリース、日本的要素が強いという表現については文章を補強する。「⑥上記を担う人材の計画的・継続的な育成」と重複するところがあるので今後調整。</li><li>資料 8-5 : トピカルレポート制度のメリットについて追記する。</li></ul> <p>(2) 佐々木委員、諸葛幹事、山本幹事より、資料 8-10、8-11、8-12 について説明。秋の大会のドラフトであり、各委員よりコメントがあればブラシアップする。</p> <p style="text-align: right;">以上</p>
備 考	

平成22年8月26日

## 専門委員会開催報告

専門委員会名	第7回「核燃料サイクルの日本型性能保証システム」研究専門委員会
開催日時	平成22年7月14日(水) 13:30 ~ 17:00
開催場所	電気協会C会議室
参加人数	14名 森主査, 天野幹事, 諸葛幹事, 山本幹事, 村上委員, 巖淵委員他
議 事	<p>(1)中間報告について</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・ 構成案、作業分担、作業スケジュールが了解された。分担者以外の執筆も歓迎する。</li><li>・ 各節の記載内容も概ね了解された。「国と民間とのインターフェイスの明確化が必要」「人材育成は事業者、メーカ、規制側も必要」「研究機能維持には予算確保も重要」「基礎データとして決定経緯も重要」「柔軟な規制実現の具体策が欲しい」「TRPの今後の役割の記載が欲しい」等の意見があった。</li></ul> <p>(2) 企画セッションについて</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・ 企業からの発表は取りやめになった。早急に学会事務局へ連絡する。</li></ul> <p>(3) ガバナンスの在り方 (口頭説明)</p> <p>(4) 安全規制の在り方</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・ 「安全規制論理の内容(案)は良く整理されており特に重要」との意見があった。</li><li>・ 安全規制の目的としては、「国民の健康、環境安全の確保」にも言及すべきではないか、との意見があった。</li></ul> <p style="text-align: right;">以上</p>
備 考	